



おぐら
尾倉

<校訓>
自主
創造
協力



令和4年10月18日(火)発行
校長 栗原 博巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
 - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
 - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

学生になった今でもバドミントン部に入り、活動を続けています(笑)。

親の応援とはどうあるべきでしょうか。土曜日のソフトテニス部の保護者の皆様を見て、昔を思い出しましたし、本当に「温かさ」を感じました。

時を同じくして、新聞に以下のような記事が出ていたので紹介します。

@@

中体連の大会から思うこと(保護者の方向け)

15日(土)ソフトテニス部の新人戦が行われました。私は八幡東区の大会会長として参加しました。尾倉中の生徒は一生懸命ボールを追いかけて、男女ともとても頑張っていました。

その中で感じたことを書きます。それは、保護者の皆様の応援です。コロナ禍ですので、大きな声は出せません。しかし、子どもたちを見守っているような保護者の方々の応援の姿を見て安心感を覚えました。子どもたちがよい成績を残せたのも、このようなスタンドから子どもたちを包み込むような応援があったからだとも感じました。

私の娘は4年生の終わりの春休みからバドミントンのジュニアチームに入りました。周りの子どもたちは2～3歳から始めているような子どもたちばかりで、当然、技術も追いつかず、泣いてばかりだったことを覚えています。監督さんは昔から知っているとてもいい方で、親としては安心して預けていました。

娘は下手な割には「応援に来て」というタイプだったので、私も部活動がない時には(といっても、小学校と中学校が同じ会場で試合をすることが多かったので、必然的に娘の試合を見ることも多かったのですが)、見に行っていました。

ところが、県大会の日が近くなると、「見に来ないで」というようになりました。今まで「応援に来て」「見に来て」と言っていた子がどうしてかなとは思いましたが、こっそり見に行きました。

そこで、分かったことがありました。試合中は、保護者から「美侑(娘の名前です)は下手やけ足引っ張るよね」という言葉、友だちからは「美侑が出ると、試合に負けるから来んで!」という言葉。その子たちの保護者は笑っていました。「これが理由か!」と思いました。試合は負けましたが、家に帰って「よく頑張ったね」と言ってあげました。その時ばかりは嬉しそうでしたが・・・。

その娘が、6年生になり、こともあろうに、女子のキャプテンになったのです。私は監督に「一番下手な子がキャプテンは無理じゃないですか」と言いましたが、「上手い、下手で決めたんではありません。先生も中学校の監督ならわかるでしょう」と言われました。それはそうですが、部活動とは違い、ジュニアチームなので、私は「無理」と言い続けましたが、結局、キャプテンになったのです。

それからが大変でした。上手い子の保護者からの冷ややかな視線が私や妻、娘に浴びせられ、周りの子も「なんで美侑がキャプテンなん。〇〇ちゃんのほうがいい」と言いたい放題でした。

当然、試合でも、上手い子が失敗しても何もなく、娘が失敗すれば、応援の保護者から「キャプテンなのに何しよるんかね」という冷たいヤジです。娘にも聞こえていましたが、小学生ながらよく一年間耐えたと思います。このような体験があれば、バドミントンを嫌いになりそうなのに、なぜか、大

